

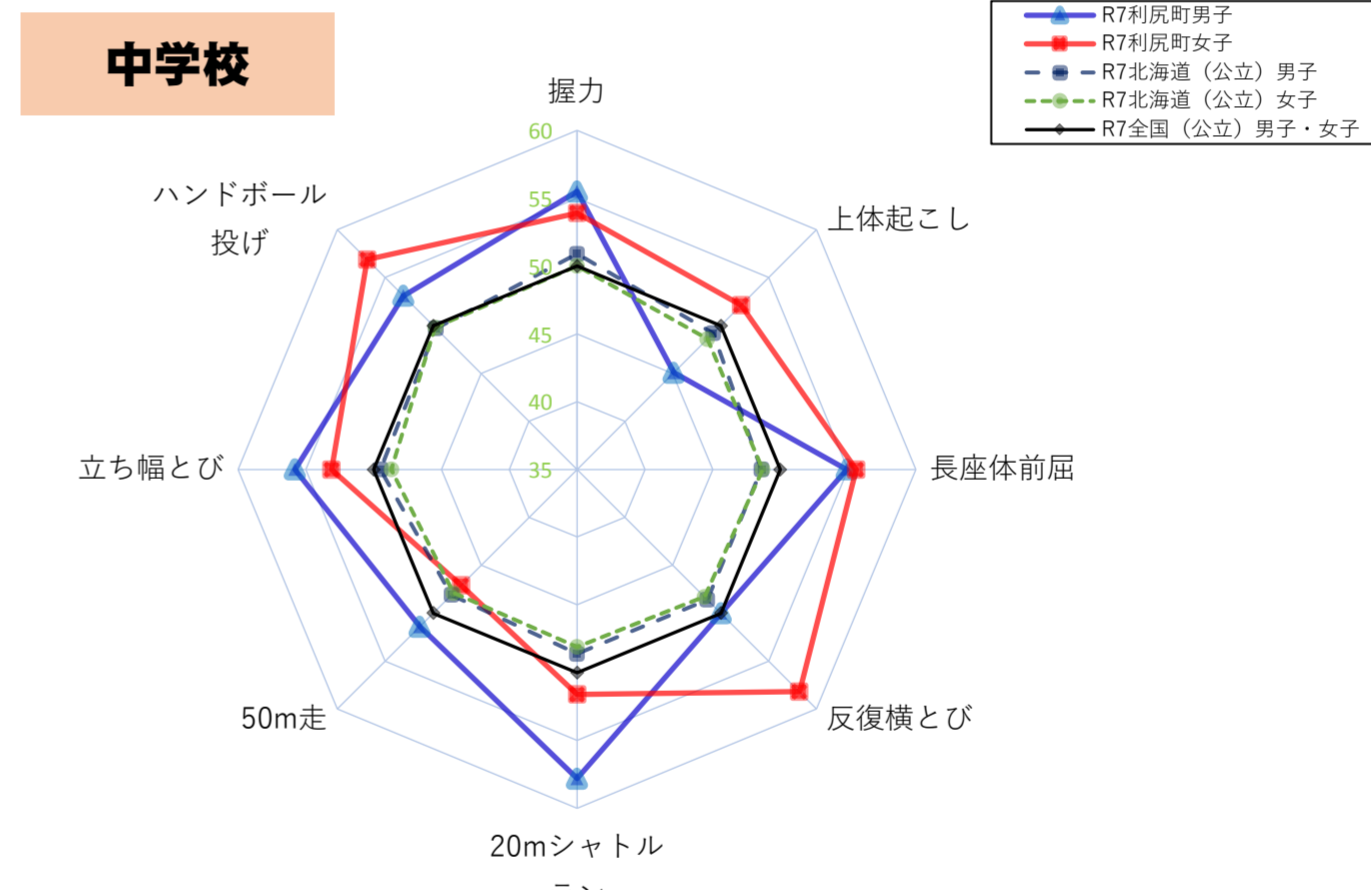
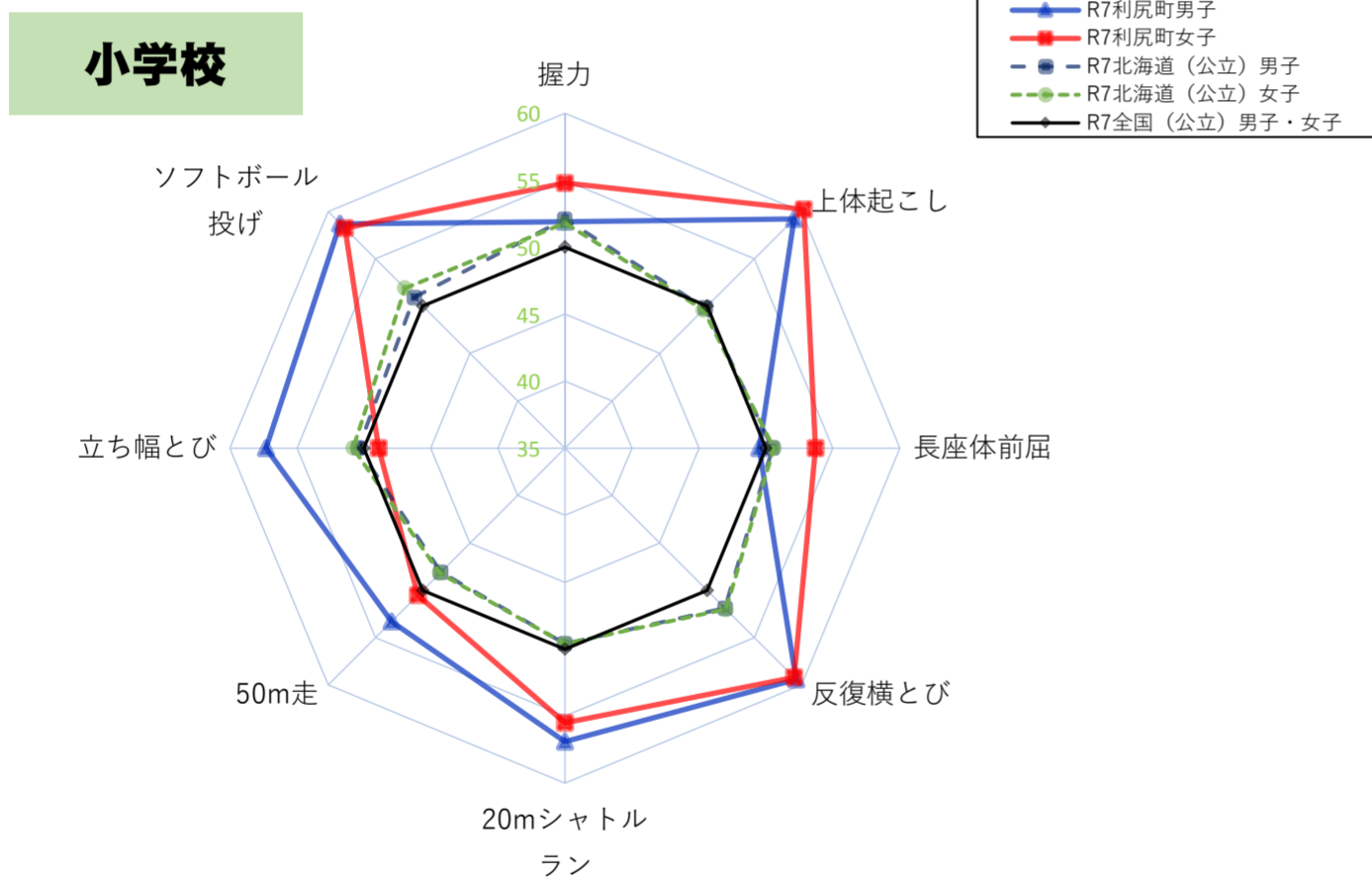
令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 利尻町内の小・中学校の状況及び今後の体力向上策

○ 実技に関する調査の状況
・各種目の記録及び体力合計点

小学校	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
R7利尻町男子	16.71	25.14	33.43	48.86	62.57	9.10	169.29	28.29	61.00
R7利尻町女子	17.44	24.11	41.56	45.67	45.67	9.72	139.67	17.00	61.25
R7北海道（公立）男子	16.76	19.33	34.37	42.49	47.16	9.67	152.02	21.85	53.60
R7北海道（公立）女子	16.29	18.12	38.71	40.25	36.13	9.95	144.25	14.04	54.61
R7全国（公立）男子	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
R7全国（公立）女子	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

中学校	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
R7利尻町男子	33.00	23.00	50.67	51.67	98.67	7.87	216.33	22.67	45.33
R7利尻町女子	25.00	23.00	53.20	52.20	53.80	9.24	175.20	15.40	52.00
R7北海道（公立）男子	29.63	25.61	43.58	50.36	75.24	8.17	195.81	20.57	41.05
R7北海道（公立）女子	23.17	20.85	45.62	44.40	46.84	9.16	162.75	12.34	45.62
R7全国（公立）男子	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	8.00	197.51	20.74	42.20
R7全国（公立）女子	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	8.97	166.44	12.43	47.58

・各種目の全国平均値を50とした場合（T得点）の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで表示

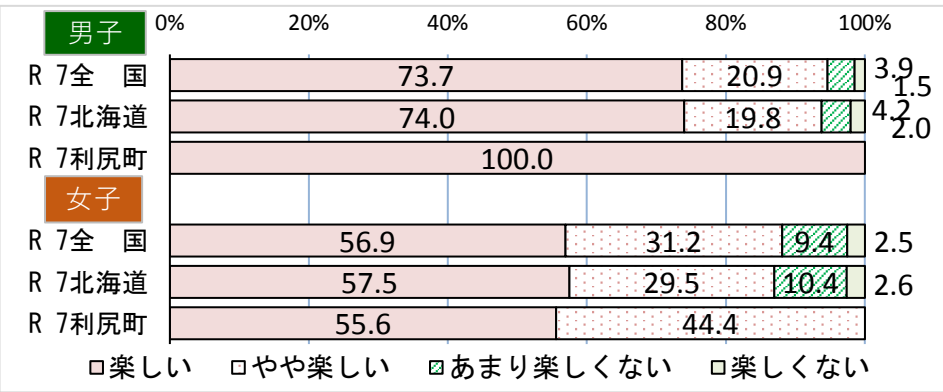


○ 質問調査（児童生徒質問調査・学校質問調査）の状況

小学校

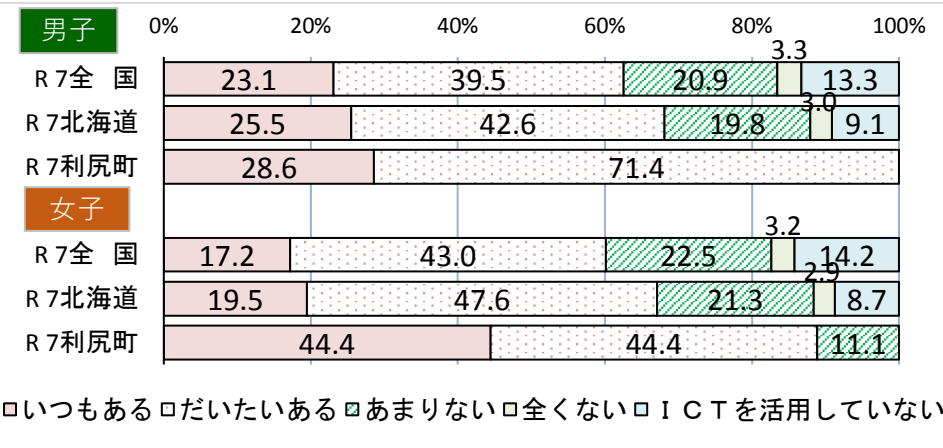
【児童質問調査】

・ 体育の授業は楽しいですか



【児童質問調査】

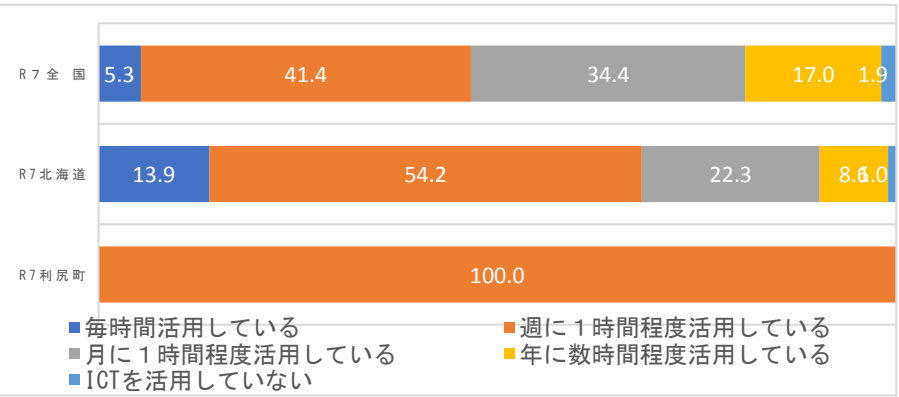
・ 体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがあります



【学校質問調査】

小学校

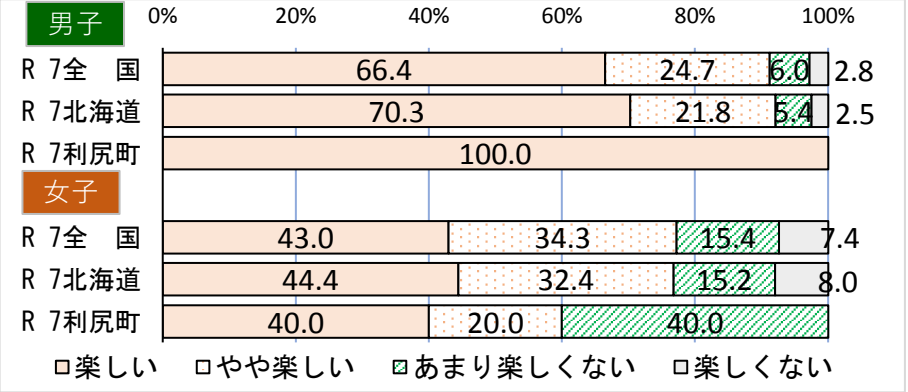
・ 体育授業でのICT活用頻度



中学校

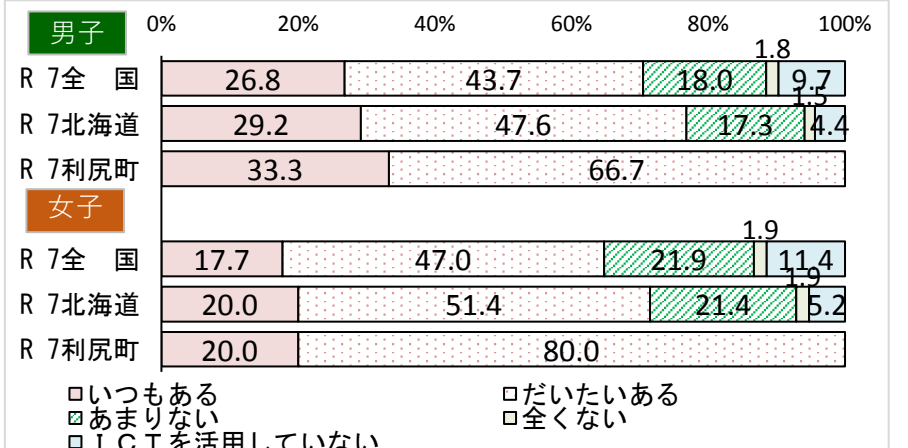
【生徒質問調査】

・ 保健体育の授業は楽しいですか



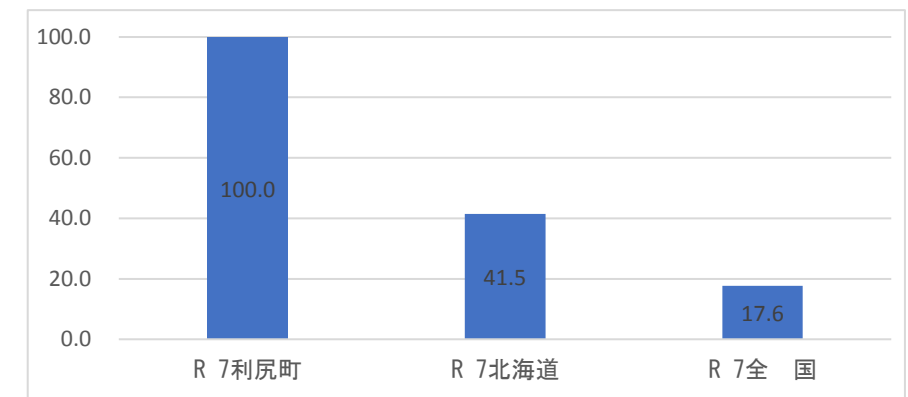
【生徒質問調査】

・ 保健体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがあります



中学校

・ 保健体育授業において毎時間ICTを活用している。



■ 調査結果の分析

小学校

【成果】
 ・ 「体育の授業が楽しい」と感じる児童の割合が男子が100%、女子も「楽しい、やや楽しい」で100%となっており、ICTを活用することにより理解を深める取組の成果が現れている。

【課題】
 ・ 男子は授業は楽しいが、ICTを活用することにより「できた」「わかった」がいつもあることが少なく、反対に女子は、「楽しい」が全道全国平均より低いが、ICTを使うことにより、できたりわかったりする傾向が見られる。
 この状況を踏まえ、指導の工夫が必要である。

中学校

【成果】
 ・ 中学校も小学校同様の結果が見られるが、女子の保健体育の授業があまり楽しくないとの回答割合が高く、ICTを活用することにより理解を深める取組は成果としては見られる。

【課題】
 ・ 小学校同様男子は授業は楽しいが、ICTを活用することにより「できた」「わかった」がいつもあることが少なく、反対に女子は、「楽しい」が全道全国平均より低いが、ICTを使うことにより、できたりわかったりすることを「保健体育の授業は楽しい」と肯定的に回答できるよう工夫が必要に感じる

■ 利尻町の体力向上に向けた改善方策

・ 利尻町における全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を踏まえた体力向上や体育・保健体育授業の改善・充実については、R7年度スポーツ少年団加入率が全道1位の結果通り、スポーツ少年団等に入っている割合が、男子は100%、女子も88.9%の高い水準になっている。運動する機会の提供や幼児から大人までの継続性のある取組を部活動の地域展開も含めながら実施をしていきたい。